

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
314	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Changes in alcohol consumption and subsequent risk of type 2 diabetes in men. 男性におけるアルコール摂取の変化とその後の2型糖尿病のリスク	
執筆者	
Joosten MM, Chiuvè SE, Mukamal KJ, Hu FB, Hendriks HF, Rimm EB.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Diabetes. 2011 Jan;60(1):74-9.	
キーワード	
アルコール摂取、2型糖尿病	
要 旨	
目的： 4年間のうちの飲酒状況の変化と2型糖尿病リスクとの関連を検討する。	
方法： Health Professionals Follow-Up Study 対象者の中で1990年時点で癌や糖尿病を有さない38,031人の男性を前向きに追跡研究した。飲酒状況は食物摂取頻度調査票 (FFQ) にて報告され、4年ごとに更新されている。	
結果： 428,497人・年の追跡期間中に1,905人に2型糖尿病が発症した。4年間のうちアルコール摂取が1日当たり7.5グラム(約2分の1ドリンク)増加するごとの糖尿病リスクはベースラインでの非飲酒者においては多変量ハザード比[HR]で0.78、95%信頼区間[CI]:0.60-1.00)であり、飲酒量<15 g/dayの者ではHR 0.99; 95% CI: 0.95-1.02であった(交互作用 P< 0.01)。同様のパターンは総アディポネクチン・レベルとHbA1cでも認められた。すなわちベースラインでは非飲酒か軽度飲酒者で、その後の飲酒量が中等量増えた群の方が、より少ない飲酒量の者あるいは既に中等量飲酒者でその後の飲酒量が増えた群に比べて代謝プロファイルはより好ましい状態だった。また、観察期間中、飲酒量が安定していた軽度飲酒者(0-4.9 g/day)よりも、ベースラインで軽度飲酒者で、その後の飲酒量が中等量に増えた(5.0-29.9 g/day)群の方が、2型糖尿病リスクが有意に低かった(HR 0.75; 95% CI: 0.62-0.90)。	
結論： ベースラインで非飲酒か軽度飲酒者で、その後の飲酒量が中等量に増えた群は2型糖尿病のリスクが低かった。4年間のうちで飲酒量が増えるにつれこのリスク低下が認められた。	